

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



平成28年5月16日（月）～平成28年5月22日（日）〔平成28年第20週〕の感染症発生状況

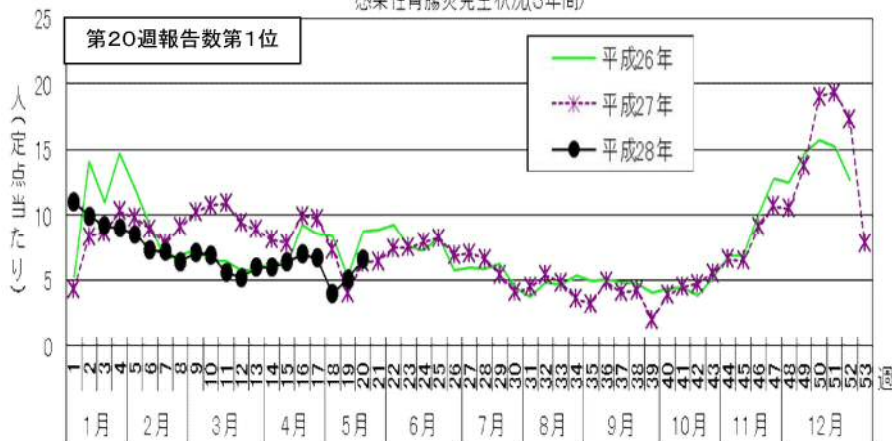
第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.57人と前週（5.08人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

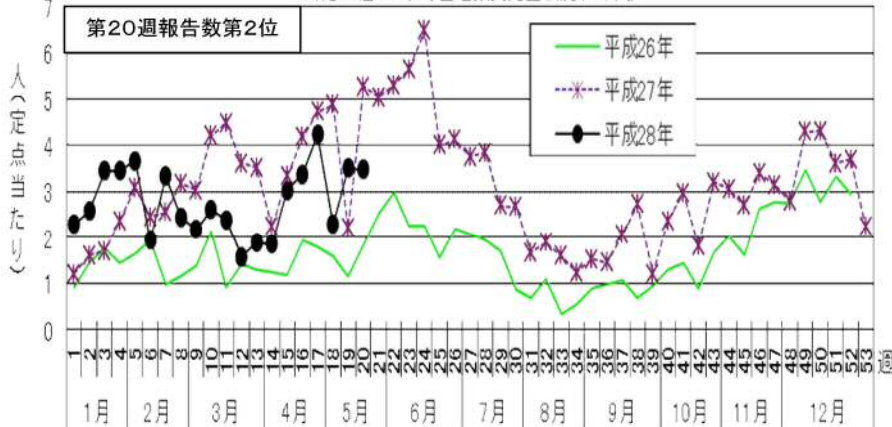
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.49人と前週（3.51人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.11人と前週（2.33人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



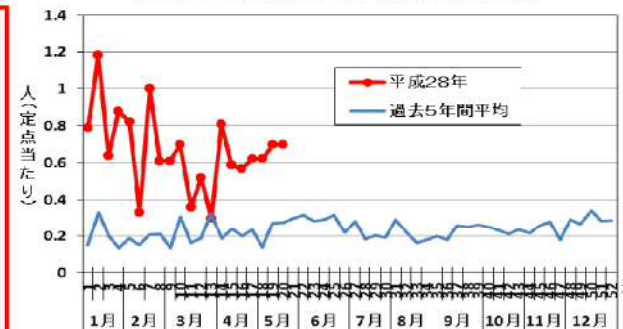
気を付けたい感染症～流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)～

2015年11月頃から、川崎市内での流行性耳下腺炎の報告数が増加しています。過去5年間平均と比較しても高いレベルで推移しており、現在、中原区・多摩区での報告数が多くなっています。

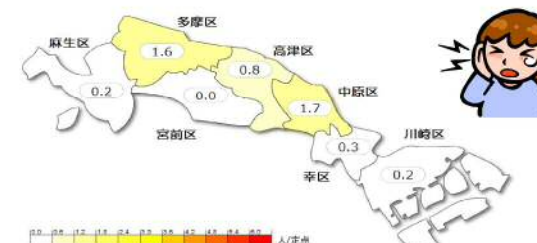
流行性耳下腺炎ってどんな病気？

- 病原体：ムンプスウイルス
- 潜伏期間：2～3週間
- 感染経路：接触・飛沫感染
- 好発年齢：3～6歳の小児
- 症状：両側又は片側の耳の下の腫れや痛み、発熱等がみられますが、通常は1～2週間で軽快します。また、感染しても症状が出ない方（不顕性感染）も多いと言われています。
- 合併症：髄膜炎・睾丸炎・卵巣炎・難聴などがあり、特に妊婦では感染すると自然流産することもあります。
- 治療法：特別な治療はありません。
- 予防方法：ワクチン接種

川崎市の流行性耳下腺炎発生状況



川崎市の流行性耳下腺炎分布マップ(第20週)



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)